

怪獣 母ちゃん 奮闘日記

4人の子どもを育てる母
ちゃんが、家族、子育て、
自分のことなど日常のあ
りのままをつづります。

書く人／辻登志江さん

夫と三男一女(1号ゆいた7歳、2号
じんと5歳、3号みつる4歳、4号しほ
2歳)と暮らす。22年前に作業療法
士免許取得、病院勤務と青年海
外協力隊の活動、大学院を経て、
2012年結婚を機に徳島へ。憧れ
ていた農業を始める。「つながり農
園」主宰。現在もまだまだ進化中の
44歳。

怪獣は果たして母ちゃんか子どもか!?

今日も我が家の怪獣の勢いは止まらない。1日に一升半のご飯を平らげる。食事中は大騒ぎ。「おいしー」「こぼしたー」「おかわりー」「お茶ちょうだい」「トイレ」って同時に言ってくる。洗濯だって1日に5回。干すのもまるでバズル。おもちや部屋は一瞬でおもちやの海、取りあいの喧嘩。お出かけも大騒ぎ。ゼンマイ仕掛けなのか寝る直前まで全速力で動いている。1号から4号まで「今日は何したの? 楽しかった?」などとゆったり聞いてみたいけど、バタバタで結局「え!?」なんでそうなるんよ。順番に言ってる。〇〇して。〇〇やめて」って大きな声で怒っちゃう。

ある時、アンガーマネジメントなる講座があつて参加した。そこでは、怒りの正体は「理想と現実のギャップ」って教えてくれた。ええー! つまみ、すごいエネルギーを使って怒っているのに母ちゃんの一人相撲ということか!? また、友人が紹介してくれた本(「そ・わ・か」の法則/小林正観)にはこんなことが書いてあつた。大人がイライラして怒って怒鳴って腹立てる、力で抑え込むとする。すると、こういう場面には怒りの感情というものを持って表現するもんなんだ、大きな声や力で対処するもんなんだと子どもが学ぶことになる。そしてその子が親になり同じ方法を引き継ぎ、結果的に何世代か後の争いを産むことになる、と。ガビン。こ



父さんの誕生日に全員集合写真。(母ちゃんの後ろ)1号ゆいた(7歳)から時計回りに、4号しほ(2歳)、3号みつる(4歳)、2号じんと(5歳)。「広辞苑」によると、怪獣とは、「正体不明の不思議な獣」とか「特別な力をもつ生き物」だそう。果たして怪獣は、誰だ!?

の怒り表現が未裔にまで影響!?!と。母ちゃんまたシヨック。
実際、怪獣達は母ちゃんが怒ってるから一応止まるけど、なんでもかかわかなくなって、困ってもない。ただ、母さん、見て聞いて教えてーって来てるだけだったりする。子どもも怪獣はいつも本気で生きてて、全力で泣き笑い、楽しそう。行く先々で見るものすること全部が新しくして目がキラキラ。寝る直前までそんな世界で生きてるのって、なんか羨ましくなってきた。母ちゃん、子ども達には、将来は「人の間」で喜ばれる存在として、好きなことを仕事にして、不思議な力全開でどこでも楽しく生きていってほしいと願ってる。みんながそんな風に生きていいたら、幸せの引き寄せの大波が起こるんじゃないかなあーと思ってる。でも、あれれ? これって:子ども達は今もうできてるんだね。そのままを受け止めるだけでいいってことなのかな。
怪獣道は、未知で果てしない。